ボーリング柱状図

調査名	潮流発電技術実用化推進事業委託業務
事業・工事名	

ボーリングNo	4	9	2	8	2	7	2	1	0	0	2

シートNo

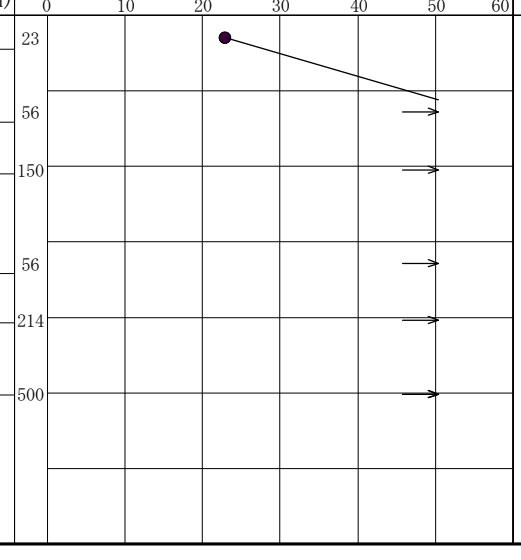
ボーリング名	大串	調査位置	長崎県五島市奈留町大串地先							北緯	32° 51' 27.0"
発注機関	環境省				調査期間	平成 26年 10月 10日 ～ 26年 11月 30日				東経	128° 53' 22.8"
調査業者名	東亜建設工業株式会社 電話（0956-23-3772）	監理技術者	高島尚吾		現場代理人	高島尚吾	コア鑑定者	早出太郎		ボーリング責任者	米田武和
孔口標高	H= -1.80m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	TOHO D1-C	ハンマー落下用具	半自動落下式
総掘進長	6.00m								エンジン	YANMAR NFD12	ポンプ	TOHO BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	-2.70	0.90	0.90		砂礫	褐灰	中位		φ2～20mmの礫を主体とし、最大径はφ30mm程度。礫間はシルト質砂。含水量が多い。	
1	-3.10	0.40	1.30		強風化砂岩	褐灰			岩芯まで風化が及んで砂質土状をなし、上端は含水多く脆弱。	
2 3 4 5					風化砂岩	淡褐灰～褐灰			全体に熱変質を受け、一部の造岩鉱物が再結晶したホルンフェルス化した様相を呈する。 部分的に堆積構造(葉理)が認められる。 割れ目が多く、コア試料は角礫状あるいは10cm以下の岩片状～短柱状に分離しやすい。 岩片自体は中硬質で、ハンマーの普通打撃で割れる程度の硬さ。 深度3.0～4.0m間は風化が進んでおり、コアは手で折れるほど脆弱。 深度4.0m以深は割れ目が発達しており、特に深度5.5m以深は岩盤状態が非常に悪く、コアが一部流失。 軟岩相当の岩盤。	
6	-7.80	4.70	6.00							

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)
0.15	4	11	8	23／30
0.45	17	16	17／7	50／27
1.15				
1.42	50			50／10
2.00				
2.10	17	18	15／7	50／27
3.15				
3.42	50／7			50／7
4.00				
4.07	50／3			50／3
5.00				
5.03				

N 値



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						11／2
						11／3